

日本記者クラブ会報

第 478 号
2009 年
(平成21年)
12月10日発行

〒一〇〇〇〇〇〇一
東京都千代田区内幸町二ノ二ノ一
日本プレスセンタービル
© 社団法人 日本記者クラブ
http://www.jnpc.or.jp

「政権交代」に明け暮れました

企画委員長 船橋 洋一

今年、政権交代があった。政権交代と言っても、並の政権交代ではない。有権者が投票で実現させた画期的な政権交代である。国民の政治に対する関心がにわか

に高まった。首相が自分の言葉で演説する。大臣チームが次々と政策新機軸を発信する。事業仕分けチームが概算要求予算を廃止とか削減とか判定する。通常なら1面トップに行

氏司会と橋本五郎、宮田謙一、倉重篤郎、原田亮介、四人組の質問団で臨んだ。いずれも公開討論にふさわしい濃厚な質疑に持ち込めたと自負している。

鳩山政権誕生後、「総選挙後の日本」研究会を催し、田中秀征、石原信雄、寺島実郎各氏らの話を伺った。続いて、鳩山政権の新閣僚の中から、福島みずほ（消費者・少子化担当相）、亀井静香（郵政改革・金融担当相）、藤井裕久（財務相）、赤松広隆（農水相）との記者会見を開いた。

企画委員会一同、来年は民主党政権ウオッチを一段とパワーアップさせたいと思っている次第である。

もう一つ、今年の大きなテーマは、経済不況だった。輸出は腰折れ、消費は振るわない。失業率は上昇し続けていく。そこへ来ての円高。菅副首相（国家戦略担当）は、デフレ宣言をしたものの、デフレ対策、円高対策ともに決め手がなく、日本経済は底が抜けてしまったような有り様である。

研究会「2009年経済見通し」



COP15の議長国デンマークのヘデゴー気候・エネルギー相もゲストに 会見終了後 船橋委員長から記念品を (5.18)

くようなニュースが3つも4つもところ狭しと1面に詰め込まれている。1面が2つも3つもほしいなあ、と思いつながらページをめくる日々が続く。こんなわくわくする気持ちになつたのはいつ以来だろうか。

当クラブも8月17日の6党党首討論会、それと前後しての民主党代表候補討論会（鳩山VS岡田）、自民党総裁候補討論会（谷垣、河野、西村）をそれぞれ開催した。川戸恵子、井田由美、影山日出夫各

は、市場の第一線で活躍しているエコノミストを中心に、日本経済の体温を常時、測る取り組みである。地味だが、大切なフットワーク作業だ。10月2日のトヨタ自動車の豊田章男社長をお招きしての昼食会は、325人という新記録の出席者で大ホールはあふれた。地方を含むこれはという企業のトップにもっとお出ましいただきたいと念じている。

新聞、テレビをめぐる経営環境は依然厳しい。同時に、ジャーナリズム環境も険しい。職業としてのジャーナリズムと職業人としてのジャーナリストの前途がにわかには曇ってきた。この方面も、私たちは目をこらしておかなくてはならない。

『週刊新潮』による朝日新聞阪神支局襲撃事件の「真犯人手記」と称する大虚報事件を受けて、メディア（なかでも週刊誌メディア）のあり方について、佐野真一氏をはじめとするジャーナリストによる連続レクチャー「雑誌・ネット・報道」も意義深いものだった。

ネット時代の影響もあつてか、事実の確認をおろそかにする荒らかな媒体をチェックするのも、ジャーナリズムの重要な役割となってきたと思う。

（朝日新聞社主筆）

2009

マスターズ・セレクション

年末恒例の「推薦書」企画です。今年最近各社を卒業してD会員のマスターズ(熟練者)に仲間入りした11人に、今年のお薦め本とこれから読みたい本(★印)を選んでいただきました。年末年始休みの読書の参考にいかがでしょうか。

泉 宏

- ① 望みは何と訊かれたら
(元時事通信政治部長)

小池真理子著(新潮社)
② 絶望の大国、中国の真実
宮崎正弘・石平著(WAC文庫)
③ ①との関連で1Q84
村上春樹著(新潮社)
(忙しくてまだ買っていない)

①について。小池真理子といえはしゃれた恋愛小説。が、『望みは何と訊かれたら』は全く印象が違った。あさま山荘事件が題材。理由は個人的。同事件の犯人の一人が中学・高校時代の親友だったから。著者は事件をよく取材し、その上で小池ワールドを紡ぎだしている。青春の苦い、そして未だに解明できない思い出。無期懲役の親友には未だ、会うことができない。学生運動の終末を共有した皆さんにお薦め。

今西 光男

- ① ゆびさきの宇宙
生井久美子著(岩波書店)
- ② 本気で巨大メディアを変えようとした男
小野善邦著(現代書館)
- ③ 近江與地史略(古書)

①は目が見えず耳も聞こえない「盲ろう」の福島智東大教授の生き方を描いた。「指点字」発見のドラマがすばらしい。②はNHK会長だった島桂次・側近の著者が、その解任劇を徹底検証した。ともに抑えた筆致の背後に筆者の温かい眼差しがある。小野氏は刊行直後に逝去された。③は初任地の大阪時代、歴史や文化財関連の連載や街ダネ記事の種本だった。携えて近江路を再訪したい。

大島 信三

- (元産経新聞編集委員)
- ① 朝鮮紀行
イザベラ・バード著(講談社学術文庫)
- ② イラク博物館の秘宝を追え
マシュー・ボグダノス著(早川書房)
- ③ 源氏物語(全6冊)
山岸徳平校注(岩波文庫)

現役のときに買ったままの本の山から「英国婦人の見た李朝末期」とサブのつく①を真っ先に手にした。車もない時代に護身用の拳銃を携えて半島を走破した勇氣、事物の克明な描写。どれにも脱帽。地元図書館で②を借りて読了。略奪捜査を担った米海兵隊大佐の涙と笑いの奮闘記。一度挫折の③にまたチャレンジしたい。字の大きなワイド版に買い替え、3年くらいで読み終えたいのだが。

北村 節子

- (元読売新聞生活情報部)
- ① オオカミ少女はいなかった
鈴木光太郎著(新耀社)
- ② それでも、日本人は「戦争」を選んだ
加藤陽子著(朝日出版社)
- ③ 人が人を殺すとき
デイリー&ウィルソン著 長谷川眞理子ほか訳(新思案社)

① 流布する「もつともらしい言説」の真偽と「なぜ世間にうけるか」を心理学者が解析。「こうあってほしい」という大衆の期待と対応するメディアの阿吽の呼吸が興味深い。② 中高生17人への集中講義の記録。一緒に現代史を再学習したが、受講生がQ&Aで見せる感受性に感服。③ 値段に躊躇して見送った本に神田古書市で再会感涙。「殺人」を進化行動学で分析した新視点を提供してくれそう。

黒岩 祐治

- (元フジテレビキャスター)
- ① 社会保障の政策転換
権丈善一著(慶應義塾大学出版会)
- ② 科学技術と企業家の精神
藤原洋著(岩波書店)
- ③ 医療戦略の本質
マイケル・E・ポーター著(日経BP社)

政権交代によっていかなる国を目指すのか。藤原洋氏の「科学技術創造立国による強小国」という提言には説得力がある。科学者、企業家などさまざまな顔を持つ筆者ならではのスケール感を感じる。政治家にこそこういうビジョンを語って欲しいのだが…。権丈善一氏のこの本を読んで、民主党は年金抜本改革を言い続ける自信が残っているだろうか? 誰しも君子豹変したくなるんじゃないかな?

佐々木 伸

(元共同通信編集局長)

- ① アメリカはなぜ変われるのか
杉田弘毅著(ちくま新書)
- ② 空白の桶狭間
加藤廣著(新潮社)
- ③ 密封・奥右筆秘帳
上田秀人著(講談社文庫)

①は「オバマ本」の1冊だが、オバマを登場させた米国の今回の「無血革命」がなぜ起きたのか、オバマ時代のアメリカが何を目指そうとしているのかが理解できる。平易で読みやすく、何よりもサツ回りを彷彿させる足で稼ぐ手法は現場重視の著者ならでは。②は秀吉の出自に絡むまさに驚天動地の歴史ミステリー。なぜ信長が大軍の今川義元の首を挙げ得たのか氷解。③は同シリーズ第1巻。面白さは「池波」以後一番。

末延 吉正

(元テレビ朝日「ニュース(テーション)」ディレクター)

- ① 気骨の判決 東條英機と闘った裁判官 清水聡著(新潮新書)
- ② 神学部とは何か 非キリスト教徒にとっての神学入門 佐藤優著(新教出版社)
- ③ 歴史としての現代日本 五百旗頭真書評集成 戦後世界の終焉と21世紀への航海 五百旗頭真(千倉書房)

フリーの政治ジャーナリストとして、コッソツと取材活動が続けながら、26年間のテレビ局時代の記録と記憶を整理しつつ、大学の教壇に立って、5年になります。学生の出身県(高校)、家庭環境によって憲法観等に大きな違いがあり、教員としての自らの立ち位置を、考え、悩みながら講義しています。東西冷戦下の学生時代に沁みこんだ、政治イデオロギーの呪縛から自由になって、「強い心」で語りかけるための支えとなった3冊を推薦します。

園田 矢

(元NHK北京支局長)

- ① それでも、日本人は「戦争」を選んだ
加藤陽子著(朝日出版社)
- ② 中華文明と中国のゆくえ
ワン・ガンウー著(岩波書店)
- ★③ 世説新語
目加田誠著(明治書院)

①新しい事柄を述べているわけではないが、筋道を立て、平易に具体的に物を語ることの非凡を痛感。②アジア在住華人歴史学者の中国文明批評。経済発展がいかに進もうと、新たな中華文明のアイデンティティーが未だ確立されていない危うさに共感。③乱世だった後漢末から南朝初期の名士たちの逸話集。無軌道な権力に時の知性はどう対応したのか。積ん読のほこりを払いたい。

中元 孝道

(元神戸新聞論説委員長)

- ① 「ふるさと」の発想 地方の力を活かす
西川一誠著(岩波新書)
- ★② 時代ト農政／都市と農村
柳田國男著(筑摩書房「定本柳田國男集第16巻」)
- ③ 富の王国 ロスチャイルド
池内紀著(東洋経済新報社)

①「ふるさととは遠くにありて思う」というのは中央集権的な偏見だろう。「ノスタルジー空間」ではなく、一義的にはそこに暮らす人々の「生活空間」として意識転換することが、今後の分権社会への基礎工事となる。常々そう思っていた。それが暗示的に書き込まれている。②分権の必要性を初めて指摘したのがこの2作だと思いが、改めて熟読したい。③文学者による金融論経営と人間性の関係が今日的で興味深い。

西 和久

(元毎日新聞エコノミスト編集長)

- ① 10万年の世界経済史(上・下)
グレゴリー・クラーク著(日経BP社)
- ★② 「新訳」大転換
カール・ポラニー著(東洋経済新報社)
- ③ 亡国予算
北沢栄著(実業之日本社)

「10万年」はオーバーなのは(まだネアンデルタール人も生きていた)と思ったが、人口動態で見る文明史という、大きな物語^①に目を見開かされた。そういえば、大昔に読んだ経済文明史の古典が新訳になった。あらためて読み返せば、違う発見があるかもしれない。最後の1冊は、日本の特別会計の闇という、^②せこい物語^③。財源がほしい民主党政権のバイブルになってもおかしくない。

深川 誠

(元日経政治部長
テレビ大阪社長)

- ① 康子十九歳 戦渦の日記
門田隆将著(文藝春秋)
- ② 私には夢がある
藤岡和賀夫著(PHP研究所)
- ★③ 正史三國志 英雄奇談
坂口和澄著(角川学芸出版)

①について。戦争末期の昭和19年から20年にかけて、多くの悲劇が日本に生まれた。これは広島原爆の日、市長だった粟屋仙吉氏の長女、康子さんの人間ドキュメンタリー。仙吉氏は即死、母もその看護にあたった本人も原爆症に^①斃れる。「気高く、誇りを持って、最後まで希望を捨てず、家族の愛と日本の未来を信じた一人の若き女性の物語」(筆者)。乱読の続く中、襟を正す思いで、ページを繰った。

アレクサンデル・ストウブ
フィンランド外相

▼加盟国外相はEU外相の「特使」に

北欧諸国の中で最も欧州統合に熱心なのがフィンランド。1995年にスウェーデンとともに欧州連合(EU)に加盟し、単一通貨ユーロを取り入れた。その国の外相に昨年春就任したストウブ氏からも欧州統合推進論が次々に飛び出した。

「冷戦から20年たち、中国やインドなどの台頭で世界は一極化から多極化へ進んでいる。欧州がまとまらないと世界の動きに遅れをとってしまふ」と、EUのリスボン条約批准実現を強く歓迎する。



携帯電話のノキアに代表される情報技術(IT)革命を進展させ、成長の足場にできたのも、EU経済と一体化や技術基準の広がりや背景にあるから当然の発言ではある。リスボン条約によって新たに創設され

11・5(木) 記者会見 司会 会田弘継委員
通訳 澄田美都子 出席 39人 H P 動画

る外交安保上級代表(外相)についても「中東やアフガニスタン、イランなどの課題解決へのEU外交を進められる」との期待を語った。

ただ、驚いたのは、各加盟国の外相の今後の立場について「EU外交が本格化すれば、外相の役割は小さくなるのが望ましい」と語ったことだ。各国外相のメンツはどうなるのかと心配になるが、「各国外相はEU外相の特使として働けばいいのでは」とさらりと語った。

41歳と若い。20年前、ベルリンの壁が崩壊した時は米国の大学に留学中だったという。その後、英国の大学で博士号をとり、プロデューサー欧州委員長の顧問を経て、欧州議会議員や、EU官僚の養成機関である欧州大学院大学教授を務めた。

日本とフィンランドはともに少子高齢化に伴う年金問題や不況、気候変動といった問題を抱えていると指摘する。「お国の教育水準の高さは日本では評判ですよ」と会見後、水を向けると、「評判に気を良くして怠け者になってはいけません」と自らを戒めるように語った。

朝日新聞論説委員 脇阪 紀行

安藤 隆春 警察庁長官

▼犯罪ネット・インフラの解明・解体



「警視庁時代にマスコット『ピポ君』を発売したアイデアマン」と紹介された安藤長官は「今後の

犯罪対策の課題」について講演した。まず、犯罪情勢について、平成14年に最悪だった犯罪の認知件数は、昨年182万件と約4割減少したが、昨年から経済情勢の急激な悪化に伴い、治安悪化への影響を懸念しているとのこと。

さらに治安に対する新たな脅威として「振り込め詐欺」「サイバー犯罪」「無差別殺傷事件」を挙げた。振り込め詐欺対策に関しては、被害額はピーク時の4分の1になったが、残るプロ的なグループをどう撲滅するか、検挙と防犯対策をさらに進める方針を示した。

次に、「犯罪のグローバル化」について、国際犯罪組織と国内の暴力

11・6(金) 昼食会 司会 小櫃真佐己理事
菅沼堅吉委員 出席 82人

団や外国人ネットワークが連携を取っている実態を説明し、警察の今後の対策として、「情報共有と情報分析が重要で、事件処理だけでなく犯罪のネットワークやインフラを解明・解体しなければならぬ」と熱く語った。また、ヨーロッパ27カ国が加盟していて、集めた犯罪情報を各国にフィードバックするEUの警察機構を見習って、東アジアにもこのような警察機構を設置するという新たな構想にも触れた。

最後に、治安再生のために、官民一体となつての対策を進めていくことが重要だと決意を述べた。

質疑応答では、さいたまや鳥取で起きた連続不審死事件について、「死因究明のための教訓を得ていきたい」と語った。

今回の会見では、「日本の治安」というキーワードをたびたび使っていた。今後、日本の治安をさらに良くするために、具体的にどう推し進めていくのか、警察庁のアイデアマンに期待したい。

日本テレビ放送網報道局解説委員 横山 武信

加藤 秀樹 行政刷新会議事務局長

11・9(月) 記者会見 司会 倉重 篤郎委員 出席 166人 HP動画

▼事業仕分けの「哲学」

そのニコニコと笑みを絶やさず、ゆっくりと優しい口調で語りかける細身、小兵の加藤氏。霞が関の海千山千、ああ言えばこう言う、したたかな官僚たちを相手にどこまで闘っていきけるのか。その回答は、記者会見で半分聞けたが、残り半分はその仕事の結果を見るしかないだろう。



加藤氏は丁寧な「事業仕分け」の哲学と具体的な作業工程を語った。事業を「現場の視点で洗い直す」ことを強調、「そもそも必要かどうか」「必要ならどこがやるか」「官か民か」について、「外部の視点で」「公開の場において」「行うとの段取りをチャート図に基づいて説明してくれた。特に言いたかったのは次の点だろう。「個々の事業が無駄かどうかにとどまらず、その背後にある制度や国、地方の関係など行財政全体の改革に結びつきたい」。

要は、カネ目

を削るのが目的ではなく、組織、制度まで踏み込んだ行政組織の改編が重要だという。「無駄削減はむしろ副産物と考えてます」とも述べた。とはいうものの、鳩山政権の要請は、95兆円まで膨らんだ各省の財政要求をいかに削るか、その削減額であることも事実。加藤氏もそのへんは先刻承知の体であったが、その目標金額、見直しについては、最後まで明言を避けた。

それにしても、聞けば聞くほど大変な作業であることは伝わってきた。会場からは、必要と認定され、さらに国から地方に移管されるのが適当とされた事業については、財政的な裏付けをどうするか、といった実務上の質問や、本来議会がやるべき仕事ではないのか、といった根本的な疑問が寄せられた。ゲストブックへの揮毫はやはり「必殺仕分け人」。加藤氏の健闘を期待する拍手が送られた。と、セラチェック段階で仕分けが終了。「高い透明度」「人民裁判」と賛否あれど、政権浮揚の劇場効果は満点でした。

毎日新聞論説副委員長 倉重 篤郎

フォルカー・シュタンツェル 駐日ドイツ大使

11・11(水) 囲む会 司会 坂東賢治 委員 通訳 ベアリーテ・フォン・デア オステン 出席 57人

▼外交は「忍耐」の連続

相次いで政権交代した日本とドイツ。両国の新政権がともに、外交で最重要視しているのが対米関係だ。ドイツはブッシュ前米政権時、イラク戦争に反対し、米国との関係を悪化させた。シュタンツェル氏は「欧州の利益のためには米国と行動をとるにしようがないが、すべての面で可能なわけではない。対立しても対話を行うことが必要。ほとんどの場合、妥協はできる」と、追従ではなく、筋の通った外交の大切さを訴える。米国との付き合い方を考える点で示唆に富む。



現は、難しいとの見方を示した。欧州連合(EU)は、12月の新基本条約「リスボン条約」発効で節目を迎えた。EU大統領新設などが盛り込まれているが、具体的な体制づくりなど課題は多い。「二歩後退、二歩前進。それで、よい結果がもたらされる。外交の知恵は忍耐、忍耐、また忍耐です」。簡単で、当たり前のような心構えかもしれないが、30年間の外交官生活から得た教訓だけに、重みがある。

駐中国大使などを歴任しアジア事情に精通する一方、本省政務総局長も務めた幅広い目配りで、核不拡散、アフガニスタンなど、話は国際情勢全般に及んだ。20年前のベルリンの壁崩壊と比較し、朝鮮半島については「北朝鮮の指導者は、旧東独の指導者より巧みに、改革の動きが起きないようにしている」と指摘、ドイツでのような平和裏での統一実

日本が北朝鮮、ドイツがイランなどと、地域的な外交の関心事は異なるが、「日本は西側社会の一員。温暖化防止など、グローバルな問題では、共通の価値観を持つ共同体」と連携の重要性を訴える。「懸案の多いが懸案」などと揶揄される日独関係。絆が一層深まるよう、辣腕ぶりを期待したい。

中日新聞・東京新聞外報部

熊倉 逸男

おがわ 小川 和久 軍事アナリスト

▼打ち返すボールは日本側に



21世紀の最初の10年が過ぎようとする中、太平洋の

両岸で民主党政権が誕生した。中国の政治、軍事、経済的台頭も著しい。日本を取り巻く国際環境がめまぐるしく変化するタイミングをとらえて、日米中関係を検証するのが研究会の趣旨だ。

安全保障の側面を中心に登場いただいた小川和久氏は国際政治・軍事アナリストで知られ、戦略シンクタンク「国際変動研究所」理事長を務める。のっけから「共和党から民主党に政権が代わっても、世界の中でアメリカの軸足は変わらない」「日米同盟は米国にとつての国益でもある。米側から同盟を解消する可能性は低い」と語り、「政権交代した日本も、軸足をブレさせないことが大切だ」と指摘したのはもつともなことでだと思う。

それでも、鳩山由紀夫新政権はス

11・16(月)研究会「日米中」② 司会
高畑昭男委員 出席 102人 HP動画

タート時から米軍普天間飛行場(沖縄県宜野湾市)移設問題で迷走が続く。13年前の普天間返還合意(1996年)当時からこの問題に深く関与してきた小川氏は日本政府内や日米間の興味深いエピソードも交えて説明し、聴衆の耳をそばだたせた。「いずれにせよボールは今、日本側コートにある。ボールを打たねば始まらない」と、鳩山首相にも早期の行動をアドバイスしたそうだ。

全体のテーマは「日米新時代の日米中関係」ということで、普天間以外にも日本の防衛計画大綱、集団的自衛権、対テロ国際協力、海賊対策など幅広い分野に及んだ。

日米中関係では、「日・米・中」か、「日米・中」なのか——との問いかけが意義深かった。まずは日本の国家像(国家戦略)や国益を明らかにし、日米が連携して取り組む。「建設的関与」を軸に、経済面では美味しい中国、軍事面では危険でない中国に変えていく「力」を日米同盟に求めるという考え方もうなずけた。オバマ、鳩山両政権の波長が早く同調するよう期待する。

産経新聞特別記者 高畑 昭男

アンヘル・グリア OECD事務総長

経済協力開発機構

▼日本経済のジレンマ

民主党政権が発足して2カ月余りの東京を、OECDのグリア事務総長が訪れた。年2回発表される経済見通しを、本部パリでなく初めて東京から発表するというふれ込みだったが、本来は半年前の発表に際して訪日を計画していたものの、総選挙近しいことで今回の訪問となったと聞く。

そのOECDの経済見通しでは、日本経済が2010年は1・8%、11年は2・0%のプラス成長に復帰すると予想されたが、「2%成長でもデフレ克服、失業率低下は見込めない」と、閉塞状況の打開には厳しい見方が示された。一方で、膨れ上がる政府債務には「信頼できる中期財政再建計画を示せ」と注文も。

どう見ても目一杯の財政出動を働かせている上に、しつこいデフレが続く日本経済に処方せんはあるのか。事務総長は「デフレだけに着目すれば歳出拡大が必要だし、財政健全化に着目すれば、増税や支出カッ



税や支出カッ

11・19(木)記者会見「エコノミック・アウトLOOK」司会 広瀬和彦委員 通訳 澄田美都子 富永恵子 出席 57人 HP動画

トが必要」だが、どちらに傾けることもできないとみる。その上で既に金融政策もゼロ金利という状況で、鳩山政権の経済政策、財政運営は「ジレンマに直面」しており、「非常に狭い余地」しか残されていないと率直に指摘した。

とは言い、外相、財務相としてメキシコを通貨危機から立ち直らせた実績があるグリア氏。「(2009年の)5%のマイナス成長からプラス2%へ、7ポイントも成長率が改善する見通しなわけで、これは立派なものだ」と、日本に向けて「元氣を出せ」とのメッセージも忘れなかった。そして、環境や女性の社会進出などに着目し、新たな成長の道を探る「構造改革が必要になるだろう」と締めくくった。

グリア氏は東京滞在中、鳩山由紀夫首相、菅直人副総理、藤井裕久財務相ら主要閣僚と会談。折しも「仕分け人」による「予算ムダ使い」排除が国民の注目を集める中で、新政権の下での日本経済の前途に、果たしてどんな印象を抱いたのだろうか。時事通信外国経済部次長

梅本 逸郎

おかげのぶひし
岡部 信彦 国立感染症研究所
 感染症情報センター長

11・19(木) 研究会「新型インフルエンザ」
 司会 岡部 信彦委員 出席 57人 HP動画

▼感染拡大、思いやりで防ごう



新型インフル
 エンザの基
 本知識を、対
 策の最前線に
 立つ専門家、
 岡部信彦さん

に学ぶ絶好の機会。講演後には「近く海外旅行に行くのだが、飛行機に患者が乗っていると機内に感染は広がるか」「かかっても鼻風邪程度で治ることがあるのか」といった生活密着型の質問が相次いだ。

医学と社会の橋渡し役も務める人だけに、つぼを押さえた講演だった。まずインフルエンザウイルスの感染経路は、くしゃみやせきのしぶきによる「飛沫感染」が中心。飛行機では、隣に患者がいるのでなければ、気にしなくてもよさそうだ。患者の飛沫に触れた手を介してうつる「接触感染」という経路もある。予防には「マスク・手洗い・うがい」が有効とされるものの、どの効果もきちんとした証明はない。

患者は症状が収まってもウイルスを出し続けるので「解熱後2日間」

か「発熱後1週間」のうち長い方を選んで休む。外出時は、ほかの人にうつさないようマスクをつける。

「季節性インフルエンザがこの冬も流行するかどうかは分からない。高齢者は季節性ワクチンを接種しておいた方がいいでしょう」

新型に対する免疫は1917年以前に生まれた「超お年寄り」でない」と期待できない。新型用ワクチンは季節性インフルエンザ用ワクチンと同等の効果が期待できるといふ。

わたしたちは新型が出現した春以来、「せきエチケット」など個人レベルの対策が重要だと繰り返し伝えてきた。しかし混雑した車内で口を覆わずにくしゃみやせきをする人はいまだに見掛ける。

車内で隣にいる人は健康そうでも、その人の身近に妊婦などインフルエンザで重症になりやすい人がいるかもしれない。「感染症は皆で防ぐ、人のことを思いやる」という考えが必要です。小児科医でもある岡部さんの温かい呼び掛けをもっと世の中に伝えていきたい。

共同通信編集委員・論説委員

辻村 達哉

ビタウタス・ランズベルギス
 リトアニア元最高会議議長

11・20(金) 記者会見 司会 石郷岡
 建委員 通訳 池田薫 出席 37人
 HP動画

▼いまだ舌鋒鋭く バルトの老闘士

会場に入ってきた老紳士は背中が丸く曲がり、足取りもなんだか弱々しい。18年前、リトアニア民主化のリーダー、民族組織サユジスの議長として、「赤の帝国」を追い出した獅子奮迅ぶりを現地で見たと記者からは「太ったな」との声も漏れた。

しかし、会話が始めると突然、炯々たる眼光を周囲に放ち出す。舌鋒鋭い言葉で、民主主義を脅かす者たちや、その現象を次々に斬っていた。

ロシアのプーチン首相を「権威主義的なリーダー」「残忍な独裁者・スターリンを称賛する過激なスターリニスト」と断言。中国や北朝鮮などの非民主国家について、「彼らの挑戦に、民主勢力が一致団結しなく



てはならない」と主張し、先に中国を訪れたオバマ米大統領さえも、「(人権問題など) 大事な問題に触れておらず、これは妥協を意味する。自殺行為になりかねない」と批判のやり玉にあげた。

終了後、「中身の濃い会見だったなあ」と某社編集委員が思わずつぶやく。名前を翻訳すると、「土の山」を意味するバルトの闘士は77歳にして今も、自らが命がけて勝ち得た民主主義の砦を、独裁国家から守る守護神そのものだった。決して背中を見せない毅然とした姿は、門前の怒れる金剛力士像にも重なった。

会見の日の夜、今度は代官山でピアノコンサートを開き、音楽家としての一面も披露した。昼とは一転した柔和な表情を見せ、国民的作曲家チュルリョーニスの作品やリトアニア民謡を40分間にわたり独奏した。集まったドレス姿のご婦人たちをほれぼれさせたのは言うまでもない。会場で買ったCDにサインを頼むと、「土山」と日本語で書いて返してきた。ニヤリと笑ったお茶目な表情を私は生涯、忘れないだろう。

産経新聞外信部

佐々木正明

アントニオ・グテレス 国連難民高等弁務官

▼日本は平和構築者に

紛争や気候変動による難民の増加と、治安の悪化による人道支援活動の危機。高等弁務官に就任してまもない2005年以來のクラブでの会見で、グテレス氏は難民問題の深刻さを訴え、より多くの難民を受け入れるための制度改革を求めると同時に、「紛争にかかわっていない日本こそが平和の構築者になれる」と期待を表明した。



世界の難民の3分の2は、アフガニスタンやイラク、パレスチナ、それにアフリカといった「紛争の弧」に集中し、アフガニスタンでは治安の悪化によって人道支援活動が危機にさらされている。地球温暖化による干ばつや洪水、食料不足も人々の強制移住や紛争拡大を招き、国内避

11・20(金) 記者会見 司会 宮田謙一 委員
通訳 池田薫 西村好美 出席 55人 HP動画

難民や難民を生み出している。

こうした危機の予防と解決のために日本の果たすべき役割は大きい。日本は国連難民高等弁務官事務所への第2の資金拠出国だが、難民の受け入れ数は諸外国と比べ極端に少ない。来年からタイに逃れたミャンマー難民を3年間で90人受け入れる準備を進めており、アジア初のこのプロジェクトが成功すれば、日本への評価が高まるだろうとグテレス氏は言う。ミャンマー難民の再定住は、日本にとって画期的なことだが国際社会はそれだけでは満足しないだろう。難民認定制度を国際水準に近づけ、より多くの難民を受け入れて社会全体でサポートしていく環境を整えることが求められている。

ポルトガル首相を6年務め、今年還暦を迎えたグテレス氏は情熱家で現場を大事にする人物である。緊縮財政で職員数の削減を余儀なくされるなど厳しい状況が続く中で、世界各地で難民支援を続ける職員の身を案じながら、人道支援と平和の構築への貢献を精力的に訴えている。

NHK解説主幹

二村 伸

河合 正弘 研究所長

アジア開発銀行

▼まずはASEANプラス3で



の力強さだった。

「東アジア共同体」について、「日本経済の生き残りのために、発展するアジア市場と深く結び付くことが不可欠」と意義づけ、東アジア経済連携協定(EPA)を手始めに「ASEAN(東南アジア諸国連合)プラス3(日本、中国、韓国)でまっぴらから、インドなどに呼びかけるべきだ」と語った。

その理由は、①中国と日本の主導権争いは非生産的で、ASEANを中心に考えるのが適切②非関税障壁が高いインドを含む「ASEANプラス6」の枠組みでは、合意に時間がかかりすぎる③米国を入れてスタートすると、まともなくなる可能性がある、などだ。

米国が東アジア共同体に入りたい

11・25(水) 研究会「日米中」③ 司会
小此木潔委員 出席 75人 HP動画

むね意思表示していることについては、「もし本気であれば、まずNAFTA(北米自由貿易協定)にアジア諸国を入れるということをやらないのか」と指摘。

同時に、アジア各国が米国やEUとFTAを結ぶのはいいことで、「最終的には東アジアをNAFTAとなげる」構想も示した。

日本と米国、中国とのFTAについては、「米韓FTAの批准が米議会でも難航していることを考えると、日本より日中間のほうが早く実現するのではないかと語った。

共通通貨については、「将来できるかどうかはわからないが、つかなければアジアではいづれ人民元が基軸通貨になってしまう。それではまずい」と、中国の脅威感が大きくなることに懸念を示した。

日米安保という同盟の政治的重要性を強調するとともに、「ASEAN各国は対立を武力で解決しないという友好協力協定を加盟国間でも日中韓とも結んだ。これを土台にアジアの平和の礎をつくるべきだ」と語ったことも印象的だった。

朝日新聞論説副主幹 小此木 潔

田中 伸男 国際エネルギー
機関（IEA）事務局長



▼日本は技術移転で貢献を

国際エネルギー機関（IEA、本部・パリ）が11月に公表した「世界エネルギー1見通し2009」を報告するため、一時帰国して会見した。2013年以降の温室効果ガス削減の新たな枠組みを話し合う「国連気候変動枠組み条約第15回締約国会議（COP15）」を前に、「エネルギーと表裏一体の関係」（田中氏）にある気候変動問題について、示唆に富んだ会見となった。

IEAの報告書は、深刻な温暖化被害を防ぐためのシナリオ実現に必要な20年の排出削減目標として、米国は「05年比18%減」、日本は「90年比10%減」と試算している。折しも会見前日の11月25日、米国が「05年比17%減」の目標を表明。田中氏は「前向きな表明で、全体の議論を進める上で重要だ。シナリオに沿った数字だが、17%削減がすべて国内

11・26（木）記者会見 司会 鶴田東洋彦
員 通訳 池田薫 富永恵子 出席 80人
HP動画

で達成されるのかどうか注視したい」と述べた。

一方、鳩山政権が掲げる「90年比25%減」の目標については、「意欲的だが、公平性からいけば10%減でいい」と指摘。10%を超える分は排出権購入や途上国への技術移転により、世界の削減に貢献すべきだとの考えを示した。

また、2030年までの温暖化対策として、家庭へのエコカー（環境対応車）導入などに10・5兆ドルの追加投資が必要になるものの、それによって運輸や建物などのエネルギーコストが8・6兆ドル節約できると報告した。田中氏は「投資資金がどうやって融通するか、民間資金が立ち上がるしくみをどう作るかが最大の課題だ」と強調した。

昨秋の金融・経済危機以降、世界の化石燃料の需要は足踏み状態となり、「気候変動対策には好機」と田中氏は言う。COP15は、法的拘束力のある新たな議定書の採択は絶望的な情勢だが、来年の新議定書採択につながる政治合意がまとまるかどうか注目したい。

毎日新聞経済部

柳原美砂子

谷 福丸 元衆議院事務総長



▼政府方針はまず国会で発信を

衆院事務局に40年以上、在籍した国会の生き字引から、知らない話をいろいろ、お聞きすることができた。例えば衆院本会議場。1933年に放火され、ヒトラーが独裁を固める契機となったドイツの旧国会議事堂の議場と作りがそっくりだそう

だ。議長席や演壇が議員席をはるかに見下ろす高さで「闊達な議論をするにはふさわしくない」が本音。でも裏側はコンクリートの塊で、そう簡単には改造できないのだと言う。

国会の最大の問題は「政権交代が長らくなかったこと」だと喝破した。「与野党が入れ替わったらこんなことはやらない、という相互理解がないまま戦術が固定化した」と振り返った。政権交代して迎えた臨時国会でも与野党の強行採決や野党の審議拒否といった不毛な場面が目立った

が、「政権交代に習熟すれば、国会も本来の機能を発揮できる」と期待する。

11・27（金）研究会「国会改革」司会 田崎史郎委員 出席 74人 HP動画

第2の問題は「議院内閣制に三権分立の思想をはめ込んだ厄介さ」だと指摘した。立法院の多数派が首相を選び、その首相が内閣を組んで政府の官僚を統御する。この議院内閣制の仕組みから「政治主導など言わずもがなだ」と強調。ベテラン議員さえ「官僚支配」を言い募る風潮を「上司が部下の悪口を言うのは恥ずかしい。米国流に立法と行政を対立させて考えすぎだ」とたしなめた。

この論理からは民主党の小沢一郎幹事長が唱える官僚答弁の禁止も当然となる。憲法解釈を担ってきた内閣法制局長官についても「法制局は法案起草といういわば内々の仕事をやる職人。表に出てきて答弁するのは……」と小沢氏に軍配を上げた。

国会改革のカギとして「重要な政府の方針などはまず国会で発信する慣行を確立し、情報センターとする」よう声を大にした。そのため、党首討論を定例化し、予算委員会に順繰りで「各大臣の審議日」を設けるよう提言。実質審議日数を増やし、会議の持ち方も工夫せよと訴えた。

日本経済新聞編集委員

清水 真人

李「Shanrong」
双龍 復旦大学新聞学院准教授

11・27(金) 研究会「世界の新聞・メディア」② 司会 瀬川至朗委員
出席 64人

▼高まる政府のネット世論への関心



中国当局がインターネット上の世論をいかに気にしているか。中国のメディア専門家の

口から語られると説得力があった。李氏が教べんとする復旦大学新聞学院は、新聞やテレビ局だけではなく、政府の新聞弁公室などメディア管理を担当する当局などにも人材を供給している。

陝西省の農民が、絶滅の危機に瀕している「華南トラ」の写真をでっち上げた事件や、多数の子どもたちが誘拐されて山西省の違法レンガ工場で強制労働させられた事件は、日本でも報道された。いずれも、新聞やテレビなどではなくネット上で疑惑が取りざたされて世論が沸騰。中国当局が問題解決に動かざるをえなかったケースだ。李氏は、ネット上での問題提起が地方都市の腐敗幹部の逮捕につながった事例も紹介し

た。中国のネット利用者は3億人以上とされ、李氏は、「政府のネット世論への関心度は日増しに増加している」と断言する。

災害報道については、昨年の四川大地震が転機となったようだ。李氏によれば、以前は国務院の許可がなければ地震ニュースを報道できなかったが、地震発生の直前に施行された条例によって可能となった。四川大地震が発生したニュースは速報され、ネット上では被災者や家族のため「人探し掲示板」などが設けられ、「既存メディアとネットが相互補完の役割を果たした」という。

李氏は日本留学時代、日本記者クラブで7年以上もアルバイトをしていたという。リップサービスでもないだろうが、質疑応答では「個人的な考え」と強調しつつも踏み込んだ発言が目立った。「情報公開といいなながらコントロールは強まっているのではないか」との問いに、「既存メディアだと中国式のルールがある」「中国は様々な問題を抱えている。私から見ると、すべてを報道してもいいのだが」。かなり率直な発言ではないか。

読売新聞国際部

比嘉 清太

クリフ・コルテズ 米国国際開発庁(USAID) HIV/AIDSアジア地域責任者

11・30(月) 研究会「HIV/AIDS」③ 司会 宮田一雄委員 通訳 池田薫 出席 20人 HP動画

▼エイズ対策分野の支援強化に意欲

オバマ政権は途上国のエイズ対策を開発援助政策の大きな柱として掲げている。エイズの病原ウイルスであるHIV(ヒト免疫不全ウイルス)の感染拡大が懸念されるアジアで、ブッシュ前政権時代から引き続きエイズ対策を牽引するコルテズ氏から、米国のエイズ政策の全体像を説明してもらった。

コルテズ氏によると、米国は2003年に5年間の大統領緊急エイズ救済計画(PEPFAR)を発表してアフリカなどの途上国でHIV/AIDS分野の治療・ケア・予防の普及に力を入れてきた。ブッシュ政権末期の昨年夏には、さらに5年間の第2次PEPFARが承認され、他の保健課題とエイズ対策を統合させた支援にも取り組んでいる。



オバマ政権も第2次PEPFARを引き継いでおり、クリントン国務長官が開発を外交、安全保障と並ぶ国際政策の3本柱と位

置づけていることから、一段と充実強化がはかられている。03年以降、PEPFARを通じた米国の資金貢献は250億ドルに達し、一つの疾病に対する一カ国の貢献としては世界史上、最大の規模になるとい

国連の最新報告書では、世界のHIV陽性者数は過去最高の3340万人に達し、年間の新規感染者数は270万人、エイズによる死者数は200万人と推計されている。人類はいままさに、重大な感染症のパンデミック(世界的大流行)に直面していると言わなければならない。

新規感染者数や死者数は21世紀に入り、減少傾向にあるのだが、それでも全体のHIV陽性者数は増えている。新規感染が年間の死者数を上回っているからだ。エイズの流行の拡大を止め、縮小へと転じるという目標はいまなお実現困難だが、その一方で、エイズ対策への集中的投資が途上国の保健基盤全体の強化に大きく寄与しているというデータもある。会見でコルテズ氏がこの点を強調していたのも印象的だった。

産経新聞特別記者・編集委員兼論説委員 宮田 一雄

攻防 事業仕分け

公開スパーリングに終日密着

▼草ケ谷 達也
(NHK政治部)

11月11日、「事業仕分け」の会場となった東京・市ヶ谷の国立印刷局体育館。「農水省の『農道整備事業』、廃止」「国交省の『まち再生基金』、来年度の予算計上見送り」。作業グループが次々と仕分けの結論を出すたび、各社の記者が即座に携帯で一報を報告。説明を終えた関係者にはぶら下がりの環が次々と作られ、さながら会場は法廷取材の様相を見せていた。

イヤホン、スリッパが足りない

鳩山政権が税金の無駄づかいの一掃の切り札として導入した「事業仕分け」。官僚と一部の政治家によって密室で行われてきた国の予算編成のプロセスを公開する初めての試みに、国民は高い関心を寄せた。午前8時45分の開場の前には一般の傍聴者の列ができ、開場を訪れた人は連日千人以上。また、インターネットでのライブ中継は、ピーク時

で2万4千件のアクセスを記録した。また、想定以上の傍聴者にイヤホンやスリッパが足りなくなる事態まで頻発した。

NHKでも、高い関心に応えるため、政治・経済・社会・科学文化の担当記者やニュース番組の取材班が各作業グループに終日密着。政治家・民間人からなる「仕分け人」と官僚などとの生の議論を詳細に伝えた。

「事業の効果を裏付けるデータは？」「国がやらなければならない理由は？」「この方法がいいとする検証成果は？」。事業の必要性について具体的な裏づけや説明を繰り返して求める仕分け人。攻撃的な言葉が一部で反発を買うこともあった。しかし、「立証責任は予算要求する側にある」という立場を明確にし、公開の場で、官僚に対して、税金の使いみちの説明を求めるのは画期的なことであった。

一方、官僚側は、事業の目的はう



最終日の仕分け作業が終わり報道陣に囲まれる蓮舫参議院議員(中央左の白い服)ら=11.27夜国立印刷局市ヶ谷センター 時事通信社提供

に關する広報などの予算をめぐる事業仕分け。仕分け人の3人が廃止、6人が予算縮減と意見が分かれた。仕分けの結論は原則として多数決だが、作業グループとしての結論は「廃止」。この例も含め、結論を出すプロセスについての説明が丁寧とはいえないケースも散見された。

今後は、事業仕分けの結果を、来年度予算案編成にどのように反映させるか、政治の舞台での議論に移る。すでに、仕分けで見直しの結論が相次いだ科学技術予算に關わる有識者などからは強い反発が出ている。しかし、政治判断で仕分けの結論がことごとく覆るようだと、事業仕分けの意義が問われかねない。

かつてない予算編成の作業は、ようやく公開スパーリングが終わったばかり。今後、官僚や業界団体からの巻き返しも予想される中、政治がどのような意思決定を行うのか。年末の最終ラウンドに向け、取材を重ねていきたい。

最終ラウンド、政治判断は…

初めての試みゆえに課題も多い。例えば、厚生労働省が計上した年金

熱視線 女子プロゴルフ

メディア対応にもプロ意識

▼並河 史樹
(共同通信社運動部)

女子プロゴルフ界が活況を呈している。かつてのまばらなギャラリイ、クラブハウスのロビーの一角を仕切ったお粗末なプレスルームを知る者にとって隔世の感がある。

状況が一変したのは、03年9月、当時高校3年、18歳のアマチュアだった宮里藍がミヤギテレビ杯でアマとして30年ぶりのプロ競技制覇を成し遂げてからだ。

小さな体をいっぱいに使ったスイングで百戦錬磨のベテラン達を打ち破り、愛らしい笑顔を浮かべた少女に、新たなヒロインを求めているメディアは一斉に飛びついた。

プロ転向宣言後のデビュー戦となった同年11月の伊藤園レディースには、史上最多の119人の取材者が訪れ、プレスルームはパンク。急ぎよクラブハウスのテラスに臨時のテントが設営されたほどだった。

02年に26万人だった年間総ギャラリイ数は05年に52万人と倍増。注目

すべきは、宮里が主戦場を日本国内から米ツアーに移した06年以降もこの数字に落ち込みがないことで、今季はギャラリイ数の実態に？がつく一時期を除き、おそらく史上最多となる60万人を突破した。

実力備えた個性派ぞろい

宮里登場以前の女子プロゴルフ界は冬の時代が続いていた。1980



宮里藍(7.26)が優勝を手にする様子(共同通信社提供)

年代に米ツアーで17勝を挙げた。世界の「アヤコ」岡本綾子がつくった女子プロブームの遺産を食いつぶし、取材に訪れるメディアも3人だった。5人だったり。ある選手が優勝インタビューに集まった報道陣のあまりの少なさに「え、これだけ！」と絶句したという悲しい笑い話もあった。

宮里に続き、横峯さくら、上田桃子、諸見里しのぶら20代前半の個性の違った選手が次々に戦線に加わったことで、女子プロゴルフ人気は単なる「藍ちゃんブーム」に終わらなかった。

ジュニア時代からプロに交じって戦ってきた彼女たちは、しつかりした技量を身に付けていると同時に、当初からメディアや多くのファンから見られているというプロ意識も強く、ウエアを始めファッションに対するセンスも相当なものだ。

生活スタイルもニュースにスポーツ紙の紙面はかつての3、4倍に膨れ上がり、その内容もプレーだけでなく、若い女の子の生活に触れることを要求される。選手が口にする「エクステ」「レギンス」

などの言葉に、おじさん記者たちはやっとの思いでついて行く時代だ。

女子選手のメディア対応は、男子に比べて実についていないで協力的だ。日本女子プロゴルフ協会が、まだ注目度の低かった90年代に、研修会などでメディアの取材に対し、きちんと対応することを徹底指導。それが、人気隆盛の今日に生きているのだと思う。

昨秋からの経済情勢悪化により、本場の米ツアーではスポンサーの撤退が目立つ。米ツアーでは地元米国の選手が伸び悩み、多くの試合を韓国などアジア勢がさらっていくことに、ファンやスポンサーが嫌気をさしたことも原因だと思われる。

日本の女子プロゴルフ界が現在の勢いを保つためには、その教訓を生かし、実力と見栄えを兼ね備えた魅力ある人材をこれまで同様に送り出す必要がある。

米ツアーの縮小傾向で、日本ツアーに参入する韓国をはじめとする外国勢の数は増えそう。激しさを増す戦いの中、日本人スター選手がどう活躍するか。女子プロゴルフ界の将来はそこにかかっている。

なみかわ・ふみき 1973年入社 以来運動部 長くゴルフを担当する

ゴルバチョフにかかされた冷や汗

—レイキャヴィック 米ソ首脳会談は決裂か



小林 和男

海外特派員の14年間は歴史の転換の出来事に恵まれて幸せだったが、冷や汗のかき通しだった。中でも心臓が破裂するような思いをしたのがゴルバチョフの人事だ。

彼が54歳の若さで書記長になって4カ月後、世界注視の人事を発表した。場所はクレムリンの最高会議場。ゴルバチョフをトップに推したのが長老グロムイコ外相だった。28年間も外相の地位にあり、国連に乗り込んで安保理で拒否権を連発し、Mr.ニエットの異名で米ソ対決路線をリードして来たご存知の人物だ。

● シェワルナゼ who?

彼がゴルバチョフ支持の一人だったことは情報を得ていたから、当然のことながらグロムイコに引き続き外交の重責を担当させるものだと思う

い込んでいた。壇上に立ったゴルバチョフの発言に腰を抜かした。「シェワルナゼ同志を外相に指名する！」日本との時差は5時間、当時のテレビ中継の煩雑さを考えると人事の結果を7時のニュースに間に合わせるにはぎりぎりの時間だ。

シェワルナゼって誰だ?! グロムイコ留任でレポートを考えていた頭は真っ白だ。汗が噴き出した。何とか衛星中継にレポートを乗せて7時のニュースには入れたが、聴視者の目はごまかせない。東京からは随分慌てていましたね、という反応がいくつもあった。また冷や汗。

後から分かるのだが、ゴルバチョフの狙いは先例にとらわれない人物の起用にあった。アメリカとの対決から対話に方向を変えるには、28年間も外相だった人物では無理だ。そ

の狙いが当たってアメリカも応え、シェワルナゼ外相就任から1年3カ月後、アイスランドのレイキャヴィックでゴルバチョフ・レーガンの米ソ首脳会談が実現した。

本題ではないが冷や汗ばかりではなかったこと、つまり少しばかりの自慢話をお許しいただきたい。ゴルバチョフ・レーガン会談はアメリカのSDI宇宙兵器開発構想を巡って対立した。ゴルバチョフは対抗措置でまた軍拡競争が激しくなるだけだと反対したが、レーガンの態度は変わらず、首脳会談は決裂した。

決裂はシュルツ國務長官がまず明らかにした。続いてゴルバチョフが記者会見することになっていた。こは何としてもゴルバチョフに質問したい。といっても会場の高校体育館を埋めた記者は数百人。どうやっ

たら質問できるか。

会場に早めに行って席を取った。ゴルバチョフの視線の癖を考えて6列目中央より向かってやや右寄りの席だ。会談決裂で顔を真っ赤にしたゴルバチョフが会場に入ってきた。気を落ち着かせるようにミルクテイーを飲んだ。いつもの癖だ。

● その、たぶん日本人！

会見が始まりゴルバチョフと視線が合ったとき、渾身の力をこめて手を挙げた。「その、たぶん日本人」これが私を指した時の彼の言葉だ。「世界は米ソの行方に心配している。ソ連はどうするのか？」

単純に聞こえるが、何かと言えば世界とか人類と大きく構えるゴルバチョフの性質を考えて練った質問だ。「会談はこれからのアメリカとの対話の第一歩だ。決裂ではない」。ゴルバチョフの答えだ。このときレーガン大統領一行はすでにアイスランドの米軍基地を発っていたが、ゴルバチョフのこの発言を知り、会談決裂の発言を対話の第一歩だと軌道修正した。

ゴルバチョフは「レーガンの態度に腹がたち、アメリカを握りつぶしてやりたいような気分で記者会見場に向かったが、記者が世界の将来を

心配していることがわかり、とっさにあの答えが出た」と、冷戦終結後の私のインタビューに語っている。

会見は生中継の準備もしてあったため、ゴルバチョフとのやりとりも収録されていて、冷戦の終結に役買ったと、私がひそかに誇りにしている記録だ。

米ソの話し合いが進み地中海マルタ島での米ソ首脳会談で冷戦の終結が宣言されて12月でちょうど20年になる。いささかの感慨をもってレイキャヴィックを訪れた。会談が行われた海岸沿いの小さな館などを回り、レーガンが飛び立った米軍基地もなくなっていることを知り、冷戦終結とソ連の崩壊でアメリカ一極支配になった経済に悪のりしたアイスランドが、リーマンショックで破産状態にあることなどを聞いて帰国したら、日本の政権が代わっていた。政権党になった民主党が矢継ぎ早にこれまでと違った政策を実行に移している。これはゴルバチョフとシエワルナゼの時に見た姿だ。

ゴルバチョフは先例や慣習にとらわれない人物を外交の指導者にすえた。シエワルナゼは外交に関わったことはないし、外国にも疎い。正確に言えば兄弟国のブルガリアへ行ったことがあるだけで外国語はおろか

ロシア語もグルジア訛り丸出した。いわば外交の素人だ。だから旧来のしがらみや先例や儀礼にとらわれず、新鮮な発想で仕事ができるだろうというのがゴルバチョフの狙いだ。もちろんその裏には二人の長い間のソ連改革の夢があった。

●素人外相に寝たふり官僚

ずぶの素人が外務省に乗り込んで、たちまち外務省内にはパニックが起こった。30年近くも同じ大臣を戴き、発想も行動もこれまでのやり方で丸く収まっていたのに、素人大臣が筋が通らないとか、金の使い方が違うといちいち指摘しはじめたら省内はたまったものではない。

では官僚たちはどうしたか。いまロシアの国連大使をしているチュールキンがシエワルナゼ新外相の報道官をやっていたが、彼は「外務官僚たちははじめ寝たふりをした」と言った。表立っての抵抗ではないが、陰湿なやりかただ。

民主党の場合はどうなるのだろうか。シエワルナゼは官僚と戦うと宣言して外務省に乗り込んだわけではないが、鳩山内閣は次官会議を廃止し、次官による会見も止めさせて、明確に官僚を押さえ込もうとしている。これまで国会答弁から政策の立

案まで、官僚が取り仕切って来た自負心は傷ついているに違いない。小泉総理が田中眞紀子外相を実現させたときもゴルバチョフ・シエワルナゼのやり方かと思ったが、こちらは陰湿というより露骨な抵抗に遭って素人外務大臣はあえなく辞任に追い込まれた。同じようなことが起こらないだろうか。

シエワルナゼ外相のチュールキン報道官とは不思議にうまが合って、個人的にもたびたび会っていた。

シエワルナゼが保守派の抵抗に抗しきれず1990年暮れに突然辞任した直後の元日、チュールキンと私はサヴォイホテルで食事をしながら、シエワルナゼを事務総長に出来ないものかと夢を語ったこともある。小国出身者が事務総長になる慣例の国連に、いくら優れた人物とはいえ大国の前外相が座ることなどあり得ないことだが、優れた人物をもつたいないという気持ちでまじめに話し合った。その彼はいま国連大使になっているが、ロシアでは国連大使は外相の有力候補だ。今のラブロフ外相も前職は国連大使だ。

●国民の支持と睨みを武器に

そのチュールキンに、外務官僚が表立って抵抗しなかったのはなぜだ

と聞いたことがある。1つは国民の支持。もう1つは睨みだという。共産党即世論だったソ連では世論調査などなかったが、もしあったとすればゴルバチョフ政権への支持率は鳩山内閣以上だったろう。国民の多くの支持があるかぎり、官僚も手を出せなかった。シエワルナゼはグルジアでKGBの長官をやり辣腕を振った経歴がある。それが外務省の中でも睨みになっていたのだという。

そのゴルバチョフ・シエワルナゼコンビが追われるようにして権力の座を去らざるを得なくなったのはひとえに実績の欠如だ。冷戦終結という歴史に残る成果があるではないか、と思うのは庶民の心を理解しない発想だ。暮らしが少しも良くならないという庶民の声の前には外交など意味を持たない。民主党を素人の政治などとは言わないが、先例にとられない政策の行方を見るのに、ゴルバチョフ・シエワルナゼの歴史は実に示唆に富んでいる。

こばやし・かずお会員 1940年生まれ 東京外語大卒業後 NHK記者 モスクワ ウェイン駐在14年 92年モスクワ支局のソ連崩壊報道で菊池寛賞 93年モスクワジャーナリスト同盟賞 現在作新学院大学特任教授 サイトウ・キネン財団評議員 著書に『エルミタージュの緞帳』（日本エッセイストクラブ賞受賞）『狐と狸と大統領』など

島根県立大生遺棄事件

人口6万の町で悲劇 不安解消に市民が動く

■中山 竜一

(山陰中央新報西部本社報道部長)

人口約6万人の静かな港町・浜田市を突然襲った悲劇。行方不明になっていった島根県立大総合政策学部1年、平岡都さん(19)。「同市原井町」の遺体の一部が、広島県北広島町の臥龍山の山頂付近で見つかった事件を受け、現地のデスクとして文字通り日夜、取材指示などに当たっている。

「女子大生が行方不明」。浜田署からファクスが流れたのは11月2日。同署が、香川県坂出市に住む両親の意向で、顔写真を公開しての捜索に踏み切った。事件や事故に巻き込まれた可能性があるとして、記事

化。行方不明になってから、携帯電話の微弱電波が確認されていないことが引かなかつたが、大事件になろうとは思わなかつた。

それだけに、一報をテレビのニュース速報で知ったときには、がくぜんとした。公開捜査に踏み切って5日目の悲劇。まさか。言葉を失った。

浜田署に捜査本部が置かれ、全国から殺到するメディアに対応。大手紙や通信社などは10人態勢で地取りに当たるなど、文字通りのローラー作戦を展開している。

弊社の浜田常駐の記者は4人。地方紙として限られた人数で、対応するには限界があり、松江市の本社からの応援を得て、サツ回りや定時レク取材、大学、市、地元住民の動きなどを取材している。



花東が手向けられた平岡都さんの遺体頭部発見現場(手前) = 11.28 広島県北広島町東八幡原

取材、出稿後のミーティングは連日、午前2時ごろまで続き、取材チームを記者とともに考え、決定。心身ともに疲れた。

平岡さんは成績優秀で語学に興味を持ち、留学などの夢を抱いていた。平岡さんの人となりを書かれた原稿を読み、やり切れない思いと、犯人への怒りが募った。遺体の状況などが徐々に明らかになるにつれ、猟奇性に身震いした。

そんな中、市内在住の読者から会社「(平岡さんの)ご両親が本当にかわいそうでならない。献金したい」という申し出があり、記事化した。学生や子どもたちの不安解消に向けた動きが、事件以来、活発化している。ざっと挙げれば、青パト隊の夜間パトロール開始、夜間のバイト先である飲食店主が大学生の帰宅時に送迎、小学校区ボランティアによる児童の集団下校見守り。

浜田は人情味あふれるまちだと赴任時に聞いたが、考えていた以上の優しさに触れた思いだ。捜査系の本記筋を追うことは言うまでもなく記者の基本だが、こうしたサイド系の話こそ、地元紙ならではの視点として、しっかりと聞き、書かねばならないと肝に銘じた。

大学と市役所に置かれた献花台には延べ約1500人が花を供え、志半ばにして不条理に突然、生命を絶たれた平岡さんの死を悼んだ。

「どんな小さな情報でもいい。お願いします」。捜査関係者は、こう言つて、聞き込みを続けている。いまだに見えてこない犯人像に、捜査関係者の焦りが伝わる。平岡さんの冥福を祈るとともに、一日も早い犯人逮捕を、願つてやまない。

なかやま・りゅういち 1990年入社 整理部 浜田総局 經濟部などを経て2009年3月から現職

一口メモ 島根県立大生遺棄事件 10月26日午後9時15分ごろ、同大1年の平岡都さん(19)がアルバイト先のアイスクリーム店が入る浜田市内のスーパーを出てから学生寮に戻らず行方不明になった。警察は11月2日に平岡さんの写真を公開し、情報提供を呼び掛け、バイト先と寮の間にある山林などを捜索したが手がかりは得られず、同6日、広島県北広島町の臥龍山山頂付近で女性の頭部が発見。翌7日、島根、広島両県警は女性を平岡さんと確認、死体損壊・遺棄容疑で合同捜査本部を設置した。その後、臥龍山で、平岡さんの胴体や脚、つまなどが見つかった。



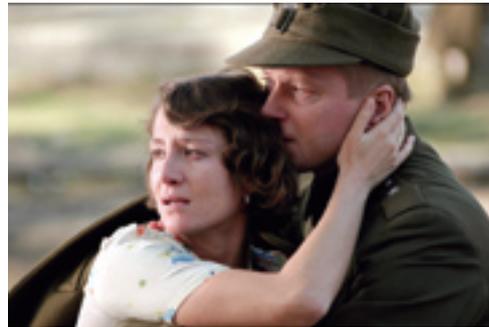
民族的悲劇の映像碑

1939年9月17日、ポーランド東部ブク川の橋を渡ろうと東西から押し寄せる群衆。ポーランド分割を合意した独ソ軍の西と東からの侵攻に混乱する人々を描く冒頭のシーンは衝撃的で暗示的だ。

英仏両国は対独宣戦布告、第二次世界大戦勃発。だが、映画の物語はソ連占領下の東部に夫(大尉)を探しに来た母娘の目前で、ソ連軍用列車が彼を連れ去るといふ引き裂かれた民族的悲劇の方向に展開する。

題名「カティンの森」はこの2年後、ソ連領内に侵攻した独軍がスモレンスク近郊でポーランド軍将校約1万5千人の虐殺現場を発掘、ソ連は「ナチの仕業」と全面否定して戦後長くナゾとされた事件。映画の最後に出て来る処刑シーンが犯人をソ連秘密警察と明確に特定している。

だが、映画の主題はその犯人捜しでもない。あくまで永遠に引き裂かれた家族だ。夫アンジェイ大尉を待



カティンの森 (11・13)

つ妻アンナ。独側の処刑軍人の氏名発表にも望みを捨てない。東西冷戦でソ連圏に入った戦後のポーランドでは状況は一層悪化、親ソ政権はソ連の仕業を仄めかすことも禁じた。ニユールンベルグ裁判でも裁かれない。兄の墓石の命日がソ連犯行を暗示するという理由で逮捕される妹。

親ソ的ポスターをはがした青年は警察に殺され、処刑を免れて戦後の国軍将校になった男は処刑遺族の上官未亡人に罵倒されて自殺する。

父を「カティンの森」で失ったアンジェイ・ワイダ監督が戦後五十年練ったという製作

意図がひしひしと胸に迫る映画だ。大国の狭間で耐えたポーランド賛歌と東方のスターリニズム弾劾である。異常な大虐殺も実はロシア革命の内戦で負けた屈辱の仕返しだった。巨匠の映像モニュメントは日本人の心を揺さぶるだろう。

毎日新聞出身 平野 裕

岩波ホールで上映中
http://katyn-movie.com/pc/

MYBOOK MYPR

国境なき大陸 南極―きみに伝えたい地球を救うヒント

柴田鉄治(朝日新聞出身)

南極の語り部に 私が初めて書いた子ども向けの本です。3年前、40年ぶりに南極を訪れ、国境も軍事基地もない姿にあらためて感動し、残りの人生を「南極の語り部」になろうと決心しました。そして「世界中を南極にしよう!」「愛国心でなく愛地球心を」「教育に南極を」と各地で講演していたら、たまたまその話を聴いていた人のすすめで生まれたのがこの本なのです。あちこちのページに出てくるペンギンの漫画の可愛いことといったら…。贈り物に最適ですよ。

(富山房インターナショナル 1,470円)

第185回施設運営委員会(11・9 小会議室)

9月、10月のアラスカ売り上げと貸し室利用状況の報告後、ラウンジでの携帯電話の使用について協議した。

出席 渡辺委員長、高橋、畑野、広江、柏木、國府、阿部、塚田の各委員。

第307回会報委員会(11・13 大会議室)
12月号以降の編集について協議した。

出席 住田委員長、小西、近藤、菅谷、富田、羽原、堀、八木の各委員。

第387回会員資格委員会(11・16 小会議室)

人づくりと江戸しぐさ―おもしろ義塾

桐山勝(日経出身、NPO法人江戸しぐさ副理事長)

江戸しぐさで日本人論 「謙譲だが卑屈ではない」。明治22年、日本を訪れた英詩人、エドウィン・アーノルドがこう評している。豪商たちが生み、庶民にまで普及していた「江戸しぐさ」を指してのことだ。明治維新で江戸の良さはすっかり否定されてしまったが、最近の見直し機運は心強い。「傘かしげ」に代表される思いやりやお互いさまといった基本から「痩せ我慢」のリーダーの心得まで、川柳や落語、豪商の家訓などを引用、時代背景に立ち入って、わかりやすくまとめた。ささやかな日本人論でもある。越川禮子理事長との共著。(MOKU出版 1,575円)

12月1日付の会員入退会を審議し、理事会に答申した。

出席 朝倉委員長、布施、松田、金子、坂本、齋藤、川嶋の各委員。

第392回企画委員会(11・19 宴会場)
年初恒例の「経済見通し」研究会の講師候補などについて協議した。

出席 船橋委員長、宮田(謙)、小此木、濱本、原田、玉利、宮田(二)、会田、菅沼、田崎、山崎、川戸、井田、和田、広瀬、石郷岡、泉、瀬川の各委員。

情報発信

クラブ施設では会員による各種の会合が行われています。企業や大使館などの賛助会員も記者発表の場としてクラブを利用しています。

■火曜会ラジオ研修会

タレントの兵藤ゆきさんを講師に、加盟社の若手ディレクター向けの研修会を開催した。同会は地方AM局の共同制作のための団体で現在36社が加盟している。正式名称は「地方民間放送共同制作協議会」(<http://radio.or.jp/>)。(11.5 大会議室)

■学生アメフト東日本代表決定戦 記者発表

関東学生アメリカンフットボール連盟(<http://www.kcfa.jp/>)が、東日本代表決定戦「クラッシュボウル」の大会概要を発表した。法政大、早大、小樽商科大、仙台大の4校で争われ、勝者は学生日本一を決める「甲子園ボウル」に出場する。(11.10 大会議室)

■アフリカ外交団、参院ODA調査班 共同会見

参議院ODA調査第3班(木保佳丈団長)がケニア、ウガンダ、南ア、仏でODAの効果や受け止められ方を調査してきた。これをうけ、調査班と、アフリカ各国の駐日代表らによる「アフリカ外交団(ADC)」(<http://www.adc-japan.org/jp/>)が会見し、調査報告のほか今後のODAの展望、アフリカ側の希望などを述べた。(11.10 10Fホール)

■『日本・ポーランド関係史』出版記念会見

日・ポ国交樹立90年を記念して出版された『日本・ポーランド関係史1904-1945 日本語版』(彩流社 09年5月刊行)の著者の一人、エヴァ・パワシュルトコフスカ・ワルシャワ大学教授が来日し、会見した。著書では、日露戦争や2度の世界大戦を通じ、2国間関係が意外にも深かったことを明らかにしている。(11.11 宴会場)

■いま、なぜ森崎和江か

詩人、評論家の森崎和江さんの著者集『森崎和江コレクション』(全5巻 藤原書店)の完結を記念し、森崎さんと姜尚中・東大教授の公開対談が行われた。森崎さんは現在の韓国・大邱市で生まれ、戦後まもなくから福岡県で活動を続けてきた。(11.16 10Fホール)

■世界人口白書2009記者発表

「世界人口白書2009」の事前発表(正式発表は2日後の11/18)が行われた。テーマは「気候変動と女性」。詳細や要約は国連人口基金東京事務所のサイト(<http://www.unfpa.or.jp/>)で入手できる。(11.16 宴会場)

■アジア・太平洋賞表彰式

アジア調査会(栗山尚一会長 <http://www.aarc.or.jp/>)が、アジア太平洋地域に関する優れた本を著した研究者を表彰するもの。大賞は『後藤新平と日露関係史』(藤原書店)の著者、ワシーリー・モロジャコフ拓大日本文化研究所客員教授と『竹島密約』(草思社)の著者、ロー・ダニエル韓国「月刊中央」誌客員編集委員に贈られた。(11.17 宴会場)

■金融危機下のロシア経済を視る

日ロ交流協会(有馬朗人会長 <http://www.nichiro.org/hp/090523/top/index.shtml>)の主催で、森敏光・元駐カザフスタン大使が、ロシア経済の分析を中心に講演した。(11.18 10Fホール)

■地方紙4社合同記者セミナー

河北新報、信濃毎日新聞、中国新聞、高知新聞が合同で、大学生を対象に、地方紙記者の仕事の面白さを伝えるセミナーを開いた。昨年に続き2回目。今年はジャーナリストの池上彰氏の講演、4紙記者のパネル討論などを行った。(11.21 10Fホール)

■天木直人さん「日本の外交力」を語る

日本ジャーナリスト懇話会(竹田純会長)で、外交評

新しいOB会員

▼北村 節子



1972年読売新聞入社。社会部、婦人部、地方部、生活情報部など。01年から調査研究本部主任研究員。現在、法務省中央更生保護審査会委員。

新職場で日々、刑余者の劇的な人生に触れ、改めて『人間を丸ごと理解することのむずかしさ』を体感中。事実をつかんで考える、という記者的作業を続ける心づもりです。

▼日下 淳



1980年日本経済新聞入社。ブリュッセル支局長、社長室担当部長、英文編集部長兼編集局次長、欧州編集総局長など。現在、日本IR協議会首席研究員。

グローバル化やIT革命で世界を動かす情報の流れは激変していますが、企業と市場の対話であるIRも変化の先端領域です。既存メディアとの関係も含め観察の所存です。

▼本田 来介



1960年読売新聞入社。政治部長、編集局次長兼解説部長兼論説委員、電波本部総務などの後、テレビ信州専務取締役、福島中央テレビ代表取締役社長、同代表取締役会長、相談役など。

自民党から民主党へ。実に久しぶりの政権交代。一線記者ならずとも血が騒ぐ。今後どのような政治が展開されるのか。注目したい。

論家の天木直人さんが講演した。鳩山政権下の日米関係を日本の外交力の視点から分析・解説。加えて、イラン、イラク、パレスチナ問題などについても参加者との活発な質疑が行われた。(11.24 大会議室)

■放送人政治懇話会

次のようにゲストを招いた。山口那津男・公明党代表(11.4)、古賀一成・民主党衆院議員(11.11)、海江田万里・民主党衆院議員(11.18)、石破茂・自民党政調会長(11.25)。

「日本記者クラブ賞」推薦 1月末が締め切りです

取材、報道、評論活動などを通じてジャーナリストとして顕著な業績をあげ、ジャーナリズムの信用と権威を高めた個人を「日本記者クラブ賞」候補としてご推薦ください。

- 「選考基準」は下記の通りです。
- ①現役ジャーナリスト個人に与えられる賞である(現役という意味は現に活動しているということで故人は対象としない)。
 - ②スクープ賞ではなく、特に最近数年間の業績が顕著であることが重視される。
 - ③その存在および業績が、ジャーナリズムの活性化と成熟にインパクトを与えるような個人を顕彰する。

会員および会員社に属する方々が候補有資格者です。推薦する方は所定用紙に候補者名などを記入し、推薦理由(2000字以内)と参考資料を添えて提出願います。推薦委員会、選考委員会では添付された資料をもとに審査します。

詳細は事務局(3503-2752 長谷川)へお問い合わせください。

バー、レストラン、宴会

予約電話 和食3503-2723 洋食3503-2766



和食 師走懐石 12月25日(金)まで

先付・鮫肝ほか、前菜・長芋胡麻和えほか、
 椀・薄葛仕立、造り・鮪、鯛ほか、焼き物・鰻
 照焼、煮物・百合根饅頭、揚げ物・帆立貝紫蘇揚げ、食事・
 蟹雑炊、水菓子・季節の果物 グラス冷酒付き(5,250円)

ふぐ特別コース 1月29日(金)まで

先付・ふぐ煮ごりほか、造り・ふぐ刺し、焼物・鰻
 照焼、揚げ物・ふぐ唐揚げ、ふぐ鍋、デザート(5,775円)



カニづくしコース 12月22日(火)まで

ズワイ蟹のカクテル、ワタリ蟹のミネスト
 ローネ、タラバ蟹のあぶり焼きリゾット、ゆ
 ずシャーベット、パン、コーヒー。(2,980円)

<法人代表変更>

東奥日報社 (新) 洞内正幸 取締役東京支社長
 (旧) 中門清司

ラウンジでの携帯電話使用についてのお願い

第185回施設運営委員会(11月9日)で、ラウンジで
 の携帯電話の使用について、会員の皆さんに以下の方
 にお願ひすることになりました。

会話は手短に、周りの迷惑にならないように配慮して
 ください。長くなりそうでしたら、受付前の電話ブース
 やその近くでお話してください。皆さんが気持ちよく施設を
 お使いいただけるようご協力をお願いします。

会員名簿をお届けしました

今年も11月1日付での「会員名簿」を作成し、12月初
 旬に発送しました。まだお手元に届いていない方、届い
 た名簿に乱丁などの不備があった場合は事務局の斉藤
 (03-3503-2725)へご連絡ください。

<訃報>

坂田雄幸会員(徳島新聞社相談役、78歳)が11月3日
 に、江口浩会員(個人D・共同通信出身、72歳)が同15
 日に、川竹和夫会員(個人D・NHK出身、85歳)が同16
 日に、下村澄会員(個人D・毎日放送出身、80歳)が同
 19日に、堀義明会員(個人D・共同通信出身、94歳)が
 同30日に死去されました。謹んでお悔やみ申しあげます。

<会員現況> 法人会員 137社 基本会員 766人
 個人会員 1,529人 法人・個人賛助会員 70社 179人
 特別賛助会員 79人 名誉・功労会員 9人
 計 207社 2,562人

クラブの電話 ダイヤルイン

和食レストラン(9階)	会員事務
3503-2723	3503-2725
洋食レストラン(10階)	経 理
3503-2766	3503-2728
貸室予約、宴会打ち合わせ	クラブ行事への申し込み
3503-2724	3503-2722
受 付	会見申し込みアドレス
3503-2721	kaiken@jnpc.or.jp

会報委員会

委員長=住田良能
 委員=小西美和子 近藤憲明 菅谷 齊 富田 恵
 羽原清雅 枇杷田裕 堀 徹男 村澤繁夫
 八木浩幸
 連絡=長谷川和子 本庄五月
 (電話 03-3503-2752 FAX 03-3503-7271)

ホールご案内

会員社のホールで開催されるコンサートなどの情報で
 す。新年企画をご紹介します。

●日経ホール

♪1/26(火) レイ・チェン〜ヴァイオリン・
 リサイタル
 2009年のエリザベート王妃国際音楽コンクールの
 ヴァイオリン部門で優勝した、20歳の新星・
 レイ・チェンの公演です。(3,500円)
 問い合わせ: 03-5281-8074

●サントリーホール

♪1/1~3 ニューイヤーコンサート2010
 ウィーン・フォルクスオーパー交響楽団
 本場のオペレッタやウィンナ・ワルツでウィー
 ンの薫りをお楽しみください。(S席9,000円)
 チケットセンター: 03-3584-9999

●王子ホール

♪1/19(火) 銀座ぶらっとコンサート「能と
 狂言 雙ノ会(そうのかい)」
 銀ぶらの途中に立ち寄れる気軽なコンサート。
 能狂言の謡の世界をご紹介します。豊かで奥深
 い日本の声楽の魅力をお届けします。(2,500円)
 チケットセンター: 03-3567-9990

1月13日(水)に会員懇親会

恒例の新年互礼会員懇親会を1月13日(水)午後1時
 から10階ホールで開催します。「2009年予想アンケート」
 の結果発表と最高得点者の表彰、「2010年予想アンケー
 ト」の投票を行います。また会員各社にご協力をいた
 だき、お楽しみのお福引きも行います。

年末年始の閉室のお知らせ

和食・洋食レストラン: 12月29日(火)の昼まで
 事務局、ラウンジ: 12月29日(火)の午後3時まで
 新年は1月4日(月)から事務局、ラウンジ、洋食レス
 トランとも通常通りオープンします。和食レストランは
 昼のみの営業といたします。5日からは通常通り、昼・
 夜とも営業します。

H P <http://www.jnpc.or.jp/>

資料室 「会見速記録」: 11月の新規掲載

●豊田章男トヨタ社長「『これから100年』の車(ク
 ルマ)づくり」(10.2) ●佐々木毅 学習院大学教授「三
 つの国民目線に立つ民主党政権」(10.2) ●「法の日」
 記者会見 山崎敏充最高裁判事総長 樋渡利秋検事
 総長 宮崎誠日弁連会長(10.1) ●湯浅誠 年越し派
 遣村元村長「『貧困』に向き合った政治を一新政権へ
 の提言」(9.10)

行事予定 (12/3現在)

「2010年経済見通し」研究会

- 6(水) 15:00~16:30 (10階ホール)
 ロバート・フェルドマン モルガン・スタ
 ンレー証券経済調査部長
- 8(金) 14:00~15:30 (9階宴会場)
 勝間和代・経済評論家
- 15(金) 14:00~15:30 (10階ホール)
 関志雄・野村資本市場研究所シニアフェロー
- 1(月) 14:00~15:30 (10階ホール)
 門間一夫・日銀調査統計局長

HP「会見カレンダー」/行事案内専用電話(03-3503-3764)

日時の変更なども含め、最新のクラブ行事をお知らせ
 しています。

写真回廊

撮影 竹田津 敦史 (たけたづ・あつし 読売新聞東京本社写真部)



11.14 皇居

大統領のお辞儀

記憶の彼方からもう一枚の写真の思い出を思い起こす。1945年9月27日、東京・赤坂の米国大使館。緊張して佇むモーニング姿の昭和天皇と並んだ長身の連合国最高司令官ダグラス・マッカーサーは、襟を開いた軍装の腰に両手をあてがってスナップ写真のように寛いでいる。

米軍カメラマンによる、敗戦国民の痛みをあぶりだすようなその写真を掲載した新聞は内務省から発行停止を命じられるが、GHQは直ちにそれを撤回させて翌々日の各紙の一面を大きく飾った。

新政権の下、米軍の普天間基地の移転先を巡る確執などで日米同盟の足場が見直されるなかで、オバマ大統領が初めて来日して皇居に招かれた。その折に迎えた「最敬礼」の写真が、今度は米国の世論に波風を起こした。「大統領のお辞儀は米国になじまない」「謝罪ツアー」などと報じたメディアもあった。

民主主義の母国で初の黒人の大統領が長身を折り曲げた背景には、天皇制という異文化への敬意もおそらくあろう。微笑ましいプロトコルの一場面が、過剰な意味づけによって一人歩きするところに、覇権大国の座が揺らぐ米国の迷いと苛立ちがのぞく。

(柴崎 信三)